

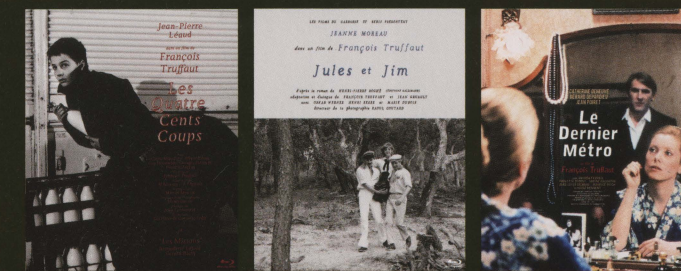
DVD&Blu-ray RELEASE INFORMATION

「フランソワ・トリュフォー～アントワース・ドワネルの冒険シリーズ～」
4Kデジタルリマスター版 Blu-ray 今秋～冬 発売予定!

(発売・販売KADOKAWA)

Blu-ray
好評発売中!

発売・販売株式会社 KADOKAWA
各希望小売価格5,280円(本体4,800円+10%税)



大人は判ってくれない あこがれ 突然炎のごとく 終電車
品番:DAXA-4685 POS:4988111146854 品番:DAXA-4686 POS:4988111146861 品番:DAXA-4687 POS:4988111146878

DVD
好評発売中!

発売・販売株式会社 KADOKAWA
各希望小売価格10,780円(本体9,800円+10%税)



フランソワ・トリュフォーDVD-BOX [14の恋の物語] [I]
品番:DABA-0612 POS:4988111286123
■「あこがれ」(短編) Les Mistons / 「大人は判ってくれない」 Les Quatre Cents Coups
■「アントワースとコレット(二十歳の恋)より」 Antoine et Colette
■「夜霧の恋人たち」 Baisers Volés
■「家庭」 Domicile Conjugal
■「逃げ去る恋」 L'Amour En Fuite



フランソワ・トリュフォーDVD-BOX [14の恋の物語] [II]
品番:DABA-0613 POS:4988111286130
■「ピアノを響かせ」 Tirez Sur Le Pianiste
■「終電車」 Le Dernier Métro
■「隣の女」 La Femme d'à côté
■「白濁日が続く美しい」 Vivement Dimanche!

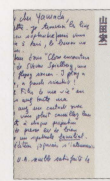
関連書籍のお知らせ

山田宏一さんの最新刊『(増補新版)フランソワ・トリュフォーの映画誌』(平凡社)刊行予定!

絶賛
発売中!



山田宏一・蓮實重彦著
「トリュフォー最後のインタビュー」
(平凡社/本体3,000円)



山田宏一著
「トリュフォーの手紙」
(平凡社/本体2,400円)

【書店にてトリュフォー関連本の展開】

「生誕90周年記念フランソワ・トリュフォー映画祭特集コーナー」 開催場所: 東京堂書店 神田神保町店(千代田区神田保町1-17)

生誕90周年上映 フランソワ・トリュフォーの冒険
2022年6月24日(金) - 7月14日(木)

6/24(金)	12:40 恋のエチュード	15:20 大人は判ってくれない	17:30 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	20:05 野性の少年
6/25(土)	12:40 ★上映後トーク有	15:25 大人は判ってくれない	18:00 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	20:10 逃げ去る恋
6/26(日)	12:40 アデルの恋の物語	14:50 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)	17:20 終電車	20:05 突然炎のごとく
6/27(月)	12:40 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)	15:10 恋のエチュード	17:50 野性の少年	19:45 アデルの恋の物語
6/28(火)	12:40 突然炎のごとく	15:00 大人は判ってくれない	17:10 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	19:45 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)
6/29(水)	12:40 家庭	14:50 逃げ去る恋	17:00 終電車	19:45 アデルの恋の物語
6/30(木)	12:40 野性の少年	14:35 恋のエチュード	17:20 大人は判ってくれない	19:30 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち
7/1(金)	12:40 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)	15:10 アデルの恋の物語	17:20 突然炎のごとく	19:40 ★上映後トーク有
7/2(土)	12:40 恋のエチュード	15:20 野性の少年	17:20 終電車	20:05 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)
7/3(日)	12:40 大人は判ってくれない	14:50 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	17:25 家庭	19:35 逃げ去る恋
7/4(月)	12:40 アデルの恋の物語	14:50 突然炎のごとく	17:10 大人は判ってくれない	19:20 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち
7/5(火)	12:40 家庭	14:50 逃げ去る恋	16:55 アデルの恋の物語	19:05 恋のエチュード
7/6(水)	12:40 野性の少年	14:35 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)	17:05 恋のエチュード	19:50 大人は判ってくれない
7/7(木)	12:40 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	15:15 家庭	17:25 逃げ去る恋	19:30 終電車
7/8(金)	10:30 大人は判ってくれない	12:40 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	15:15 家庭	17:30 逃げ去る恋
7/9(土)	10:30 突然炎のごとく	12:50 野性の少年	14:45 恋のエチュード	17:30 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)
7/10(日)	10:30 終電車	13:10 アデルの恋の物語	15:15 大人は判ってくれない	17:25 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち
7/11(月)	10:30 恋のエチュード	13:10 家庭	15:20 逃げ去る恋	17:30 アデルの恋の物語
7/12(火)	10:30 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)	13:00 終電車	15:45 突然炎のごとく	18:05 野性の少年
7/13(水)	10:30 アデルの恋の物語	12:40 恋のエチュード	15:20 私のように美しい娘 + あこがれ(短編)	17:50 大人は判ってくれない
7/14(木)	10:30 野性の少年	12:25 アントワースとコレット(短編)+夜霧の恋人たち	15:00 家庭	17:10 逃げ去る恋

※予告編上映は5分程を予定しております

INFORMATION

◎トークイベント開催!

6月25日(土) 12:40-『大人は判ってくれない』上映後
登壇者(予定): 矢田部吉彦さん(前東京国際映画祭ディレクター/映画プロデューサー)
7月1日(金) 19:40-『野性の少年』上映後
登壇者(予定): 坂本安美さん(アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム主任)

◎初回入場者プレゼント!

6月24日(金) 初日にご鑑賞の先着300名様に
オリジナル・マッチをプレゼント!
※入場先着・無くなり次第終了となります。

角川シネマ有楽町

全席指定・各回入替制
TEL.03(6268)0015
www.kadokawa-cinema.jp

▼各作品の日時・座席指定等は、ご鑑賞日の3日前より販売
(チケット窓口受付時間:劇場オープン時間より最終回上映開始まで)
(オンライン販売期間:ご鑑賞日の3日前の午前0時より、上映開始時まで)



映画が彼の人生すべてだった。

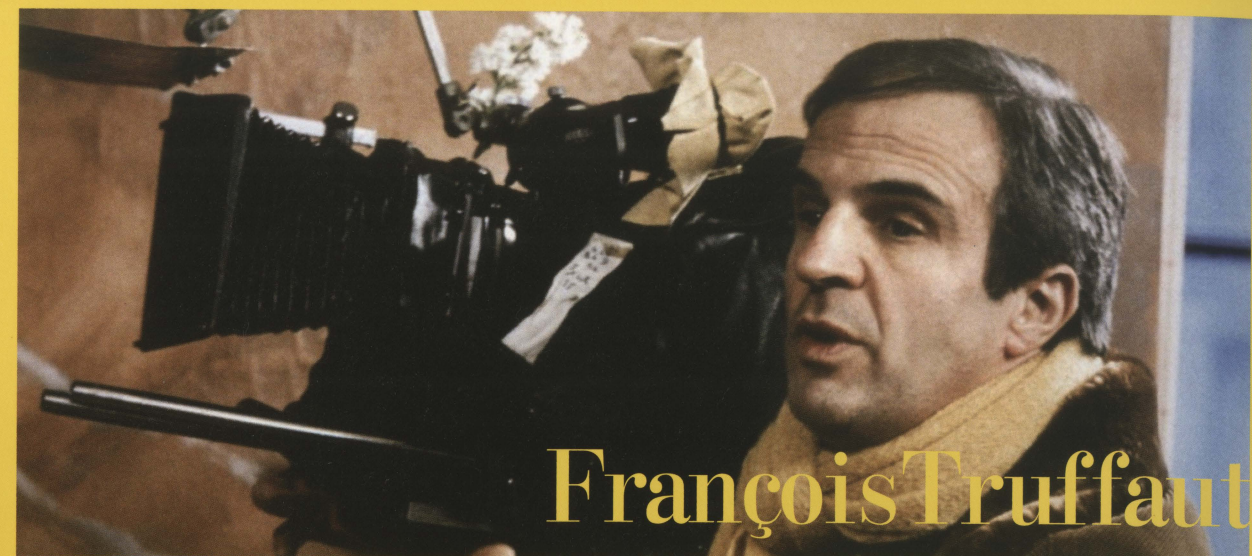
90ème anniversaire de
François Truffaut

生誕90周年上映
フランソワ・トリュフォーの冒険

【上映作品】4Kデジタルリマスター版
『大人は判ってくれない』『アントワースとコレット(二十歳の恋)より』『夜霧の恋人たち』『家庭』『逃げ去る恋』
デジタルリマスター版
『あこがれ』『恋のエチュード』『私のように美しい娘』『終電車』『突然炎のごとく』『野性の少年』『アデルの恋の物語』



提供・配給: KADOKAWA 宣伝: マーメイドフィルム、VALERIA 後援: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 KADOKAWA VALMIRIA MK2 https://movies.kadokawa.co.jp/truffaut90



François Truffaut

礼儀正しさと機転

『夜霧の恋人たち』で、アントワース・ドワネル(ジャン=ピエール・レオー)は、ひそかに恋こがれる年上の美しいタバール夫人(デルフィヌ・セリグ)を目の前にしてすっかり上がってしまい、女の人にはマダムと言わなければならないところをムッシュと口走ってしまい、おどろくタバール夫人に弁解もできずに、ただもうショックで逃げだしてしまふ。すると、タバール夫人からの手紙が追いかけて来てこんな洒落たたとえ話を伝えるのです——男の人が浴室に入ったら、すでに女性が入浴中でした。「失礼しました、マダム」と言えば、それはとても礼儀正しいことです。でも、もし、「失礼、ムッシュ」と言ったら、それは機転です。繊細なユーモアにあふれた映画作家、フランソワ・トリュフォーの人間味がじつによく出ている忘れがたいシーンです。「わたしのつりたい映画の主題は、結局は愛の物語と子供の話です。もし映画監督を難破船の船長にたとえることができるなら、「女と子供を先に救え!」という船長の言葉をわたしの映画監督としてのスローガンにしたいと思います」とトリュフォーは書いています。ハリ、エッフェル塔。海に向かって走りつづける少年。自転車、ひるがえるスカート。教育か愛か、野性の少年に人間社会への復帰の希望はあるのだろうか。コミカルなフィルム・ノワール? 野性の少年のように奔放に裸足で走り回って、おふざけいっぱい男たちを死に追いやる私のように美しい淫らなあばずれ娘の行状記。ハリハリ! 幸運の数字はいつも813。その時カメラは回っていた…8リマニアの大人ぶった少年が笑わせる。ロウソクの炎、死に至る病のように残酷で苦し、姉妹の愛のクロニクル。この紙はあなたの肌、このインクは私の血、遺言のように手紙を書きつづける女、一途な愛。ロダン美術館の庭のバルザック像。そして何よりも、映画的な、あまりに映画的な人生。

山田宏一(映画評論家)

PROFILE

1932年2月6日、パリ生まれ。八歳まで主に母方の祖母および(義)父方の祖母の手で育てられる。彼らが歳を過ぎて孫の世話をすることができなくなった後、両親と暮らすようになる。だが劣悪な家庭環境(母の愛を得られず、義父のことも尊敬できなかった)が原因で、しばしば学校をズル休みして、映画館を逃避の場とした。何度も放校された挙句、14歳のときに独学を決意。学びの場は映画と書物だった。48年より親友ロバール・ラシュネーと共にシネクラブを主催し始め、シネクラブ活動を通じて映画批評家アンドレ・バザンと出会う。この代理父的存在から経済面および精神面の支えを得つつ、職業的にも人間的にも多大な影響を受けた。バザンを介して創刊されて間もないカイン・デュシネ誌に参加、映画批評家として活動を開始するが、その容赦のない評論文の数々で「フランス映画の墓場人」の異名をとる。54年、フランス映画界の現状批判を展開し、旧弊な価値観の転覆を図った論文「フランス映画のある傾向」が物議を醸す。この論文は映画の真の作り手を監督とみなす、いわば過激な「作家主義」宣言でもあった。こうした姿勢の延長上に、アルフレッド・ヒッチコックへの長時間にわたる取材に基づく著作「映画術」(山田宏一、蓮實重彦訳、晶文社)がある。50年代半ばよりみずから短編映画を監督し始め、その後長編第一作「大人は判ってくれない」(59)を発表。多分に自伝的要素を含む同作によりカンヌ国際映画祭で監督賞を受賞し、一躍世界から注目される共に「ヌーヴェル・ヴァーグ」映画動興の一翼を担う。また「大人は判ってくれない」は、当時14歳だった俳優ジャン=ピエール・レオーとの長きにわたる協働関係の始まりを告げた。中でもこの映画でレオーが演じたアントワース・ドワネルの成長を主題とし、それを人間=俳優レオーの成長と重ねた連作は有名。半自伝的映画作りと並行して、スリラー、ロマンス、喜劇、SF等さまざまな領域に挑戦しつつ、数多くの秀作を発表し続ける。1984年10月21日、脳腫瘍により52歳の若さで死去。30本映画を撮った監督を引退し、著述家として晩年を過ごす予定だったといわれるが、目標に五本満たない全部で25本の長短編映画(共同監督作を除く)を残すことになった。

